



運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和4年1月号 第211号

(令和4年1月31日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール tou-asu@netjoy.ne.jp

◆令和4年、年初にあたり 公益社団法人 東京のあすを創る協会 会長 中井敬三

新しい年を迎え、皆様、如何お過ごしでしょうか。オミクロン株の急速な拡大で、日常の活動が再び制約を受ける状況になっています。皆様の団体の活動にも色々と支障が出ていることと思いますが、感染予防対策などを十分に行いながら、無理のない取組を行って頂ければ幸いに存じます。

さて、コロナ禍になって2年余りが経ちました。この間に社会には様々な変化がありましたが、中でも顕著だったのがインターネット利用です。感染リスクを避けるには最適な方法であることは間違いありません。世の中では、「リモートワーク」「リモート会議」「ネット購入」「ネット予約」「電子契約」「オンライン飲み会」などなど、様々な分野で多様なインターネット活用がこれまでにない速さで進んでいます。

もともとIT音痴の私などは、その展開に戸惑い、なかなか着いていけないのですが、それでもリモート会議、ネット購入、ネット予約はやり始めました。最初は抵抗感や不安があり、またうまくいかないこともしばしばでしたが、粘り強くチャレンジしていると使いこなせるものです。いまでは、「さあ、次は何をやるのかなあ。」と考えてしまうほどです。ネットを使いこなすには食わず嫌いにならずに、まずやってみようということが一番大事だと自分の経験から思います。

でも、一つだけ手を出さず気にならないのがオンライン飲み会です。飲み会は、リアルでないといけません。店の雰囲気にとっぷりと浸りながら、ともに語り、ともに舌鼓を打ち、そしてともに「この酒はうまい！」と感嘆する、これがなくては飲み会ではありません。食わず嫌いなかもしれませんが、オンライン飲み会だけはどうにもやろうという気にならないのです。リアルな飲み会を心置きなくできる日が一日も早く来ることを願うばかりです。

皆様のインターネット利用はいかがででしょうか。これならと思うところから、ネット利用の拡大を図ってみるのに、今はちょうど良い機会だと思います。コロナ禍という有難くない状況を逆手に取るわけです。とりわけ、このコロナ禍で低迷する団体活動を少しでも盛り上げるには、とても有効な方法だと思います。当協会でも、更なるネット活用を検討していきたいと思っています。この点でご要望等ございましたら、是非お聞かせいただきたいと思います。

オミクロン株の今後の動向は予断を許しません。今は我慢の時です。コロナ禍が過ぎ去る日まで、様々な創意工夫をしながら、団体活動をみんなで支えていきましょう！

[お知らせ] 公益社団法人東京のあすを創る協会の事業として、令和3年度に開催を予定しておりました「都民フォーラム」及び「東京のあすを創る運動推進大会」については、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、開催を中止させていただきます。

◆開催報告 東京都生活学校連絡協議会・講演会 令和3年12月10日(金)



東京都消費生活総合センター 16階学習室

これまで、東京都生活学校連絡協議会では、秋季に対話集会を開催してきましたが、新型コロナウイルスの影響を受けて、昨年度そして今年度については講演会のみで開催となりました。昨年12月10日、令和3年度の講演会が開催されました。

当日は、田丸会長及び(公財)あたしの日本を創る協会の榊誠理事長のあいさつの後、早速、「地球環境の保全に向けて ~ バイオマスを活用した様々な取組 ~」のテーマで、一般社団法人日本有機資源協会事務局次長の菅原良さんによる講演会が始まりました。約1時間半、熱のこもった講演に参加者も熱心に聞き入っていました。参加者は27名。講演内容は、バイオ

マスの何たるかから、今、脚光を浴びている最新バイオマスプラスチック事情まで、多岐にわたるお話しが展開されました。ここでは、そのほんの一端ををご紹介します。

▶一般社団法人日本有機資源協会(JORA ジョラ) 地方公共団体、プラントメーカー、化学メーカー、ゼネコン、コンサルタント、発電事業者、各種団体等々230団体が加盟する協会で、①バイオマス活用推進事業、②バイオマスマーク事業、③人材育成事業を通じて、有機性資源の総合的な有効利用の促進を図ることを目的とした団体です。菅原良講師はここに所属しています。

▶**バイオマスって何?** 生物資源(bio)の量(mass)を表す概念で、エネルギーや物質に、再生が可能な動植物から生まれた有機性の資源(石油や石炭などの化石資源は除かれる)のことで、具体的には、農林水産物、稲わら、もみがら、食品廃棄物、家畜排せつ物、木くずなどを指すと説明されています。ちなみに、「バイオマス」という用語がしっくりこないのですが、それは最近よく使われる「SDGs」と同様に、適切な日本語に訳されていないからではないでしょうか。SDGsは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」のことで、これは日本語にしてもさっぱりその意味が分かりせん。うまい日本語名称を付けてほしいところです。

▶**バイオマス活用の現在** さて、このバイオマスに、私たちはこれまでも多大なる恩恵を受けています。人類は古来より自然環境のもつ復元能力や浄化機能等を維持しながらバイオマスを活用し、「自然から得た資源を自然に還す」リサイクルシステムを活かしてきたのです。家畜排せつ物、生ごみなど食品廃棄物、汚泥・し尿等に至るまで、「厩肥」「堆肥」「下肥」等の肥料として農業で利用し、また、森林率67%にもなる国土を持つことから、建材や紙原料等の資材として、薪炭等のエネルギーとして産業や生活で活用されてきました。これらはエネルギー自給率を高め、水源涵養機能や生態系などの森林環境の維持にも寄与してきました。

第二次世界大戦後の人口増大と社会経済活動の拡大に伴い、石炭、石油等の化石燃料の利用が加速度的に進み、大量生産、大量消費、大量廃棄の時代に突入しました。その結果、復元能力を超えた廃棄物等の排出が増加して地球規模での環境悪化が懸念されるようになりました。廃棄に伴う処理・処分にコストがかかり、施設は臭気等で迷惑施設として敬遠されることから「やっかいもの」として扱われる事例が多くなり、外国産材や化石資源の利用増加に伴い資材やエネルギーの利用率(自給率)が低下し、これに伴って森林環境も悪化しています。

▶**バイオマス活用とともに** 大気中の温室効果ガスの増加が地球を温暖化し、自然の生態系などに悪影響を及ぼすおそれがあることから、気候変動に関する国際連合枠組条約を結び、人類共通の関心事であると確認し、大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させ、現在及び将来の気候を保護するとしています。しかしながら、私たちは江戸時代の高度な自給自足リサイクル社会に戻ることはできません。地球温暖化対策が目前のこととして、私たちは何を考え、取り組めばよいのでしょうか。今後は、再生可能エネルギーへの切り替えが加速度的に進められると思いますが、今すぐできる循環型社会に寄与する手近な取り組みを考えたいものです。

今回の講演を聞いて色々考えさせられました。最近ついつい忘れがちな「省エネ」、つまり無駄にエネルギーを使わない、浪費しないということを肝に銘じて、日々実践すべきだと思ひに至りました。

東京都市生活学校連合協議会 令和3年度「講演会」
地球環境の保全に向けて
 ~バイオマスを活用した様々な取組~
 JORA
 一般社団法人日本有機資源協会
 Japan Organics Recycling Association
 事務局 会長 菅野 昌
 (バイオマス広報アドバイザー)
 日時：2021年12月10日(金) 14:30~16:00
 会場：東京都消費生活総合センター (セントラルプラザ16階 学習室A)

内容

1. 一般社団法人日本有機資源協会 (JORA) の紹介
2. バイオマスって何?
3. バイオマスに関する国内外の動向 (脱炭素・COP26など)
4. バイオマス製品 (バイオマスプラスチック) に関する動向

JORA

わが国の政策におけるバイオマス活用の考え方 (農林水産省資料)

バイオマス活用推進基本法で定義

○ バイオマスとは、生物資源(bio)の量(mass)を示す概念であり、「動植物に由来する有機物である資源(化石資源を除く。)」であり、大気中の二酸化炭素を増加させない「カーボンニュートラル」と呼ばれる特性を有している。

○ バイオマスを製品やエネルギーとして活用していくことは、**農山漁村の活性化や地球温暖化の防止、循環型社会の形成**といった我が国の抱える課題の解決に寄与するものであり、その活用の推進を加速化することが強く求められている。

バイオマスの種類

- 廃棄物系バイオマス
 - ・ 家畜排せつ物
 - ・ 下水汚泥
 - ・ 黒液*
 - ・ 廃棄紙
 - ・ 食品廃棄物
 - ・ 製材工場等残材
 - ・ 建設発生木材
- 未利用系バイオマス
 - ・ 農作物非食用部 (稲わら・もみ殻)
 - ・ 林地残材
- 資源作物
 - ・ 微細藻類等

* 木材パルプを作るときに化学的に分解・分離した際、発生する液体

用途

- マテリアル利用
 - ・ 素材として
 - ・ プラスチック・樹脂等
 - ・ 化成原料として
 - ・ アミノ酸、有用化学物質等
- エネルギー利用
 - ・ 電気・熱に変換
 - ・ 直接燃焼、ガス化
 - ・ 燃料に変換
 - ・ エタノール、ディーゼル、固形燃料、ガス等

(既存利用)
 ・ 肥料等
 ・ 薪炭 等

カーボンニュートラルとは?

生物由来のバイオマスは、燃焼等により二酸化炭素を放出しても生物の成長過程で光合成により吸収、大気中の二酸化炭素を増加させないという性質

CO₂吸収 (-) → CO₂放出 (+) → CO₂吸収 (-) → CO₂放出 (+)

再生 → 成長 → 収穫 → 良質材 → 製品利用 (製材製品、木質ボード等) → 再利用 → 良質材

工業エネルギー利用 (発電、熱利用) → CO₂放出 (+)

バイオマス活用にあたっての課題

- 多くのバイオマスは、地域に「広く薄く」存在しているため、経済性の向上が重要
 - ・ 原料の効率的な収集・選搬システムの確立
 - ・ バイオマス製品等の販路の確保
 - ・ 幅広い用途への活用 (高付加価値化)
 - ・ 製造・利用技術の低コスト化

高度利用・カスケード利用・熱利用

経済性が確保された一貫システムの構築

19

▽**ひとこと** 大相撲初場所で御嶽海が優勝し、大関昇進が決まりました。一方、ケガで休場した貴景勝、成績不振が続く正代と先輩大関の不甲斐なさも目につきます。このところ、大関に昇進しても成績不振などで、その地位を守れずに平幕に陥落する例が少なからずあります。栃ノ心、高安、もう引退しましたが琴奨菊。また、別の理由ですが朝乃山も大関から陥落しました。そんな相撲の世界では勝負の非情さはつきものですが、私たちが暮らす社会の中でも大関からの陥落のような不遇をかこつような例もあるようです。安定した地位に「胡坐をかく」なんていう言葉は、相撲の世界では通用しないようですが、コロナ禍の中、大関御嶽海にならい「感謝の気持ちを大切にし、自分の持ち味を生かし」、「胡坐をかかず」に今年も頑張るとするのは、コロナと共に生きていくためには必要かもしれません。(竜)